

# 二十歳の決意

好天に恵まれた一月十五日、町体育館で開かれた成人祝賀式に男子六十三名、女子八十名の計一四三名が出席し、晴れて大人の仲間入りを果たしました。広報では次の四名の方の意見を掲載しました。それぞれ成人を迎えた緊張と意気込みが伝わってくるようです。

## これからが勝負

長塚 吉田弘法(学生)

今日が我々にとって嬉しい社会への門出である成人の日。この日を迎えることにより、社会的地位を得ることができ、一般的に社会より承認される日である。

しかし、我々が今、社会人として巣立った時、果して社会の一員としてゆく自覚と、能力を兼ね備えているかどうかということが、この日を迎えるに当たって最も重要なことであると思う。

僕は今まで、社会人になった時、このような人物になりたいという決意を持っていた。

これは高望みでも、期待でもない。僕自身が今まで経験してきたものが、この目標を作り出したのだと思う。これは幼い頃から、何度も変わりつつ今の型に成ったものであり、この骨格を

装飾できた時に初めて、成人としての実感が湧いてくるのだろうと思う。

その装飾も、ただの飾りであってはならないのである。よく練った、骨格に合うものでなければ、未完成なものである。

## 農業に自信と誇りを

宝米 鈴木 等(農業)

つい先日、高校を卒業したばかりだと思っていたのに、もう二年ほどたつてしまい、何もしないうちにはたちを迎えることになりました。

これからは、今までのように他人に甘えず自分の行動、言動に自覚と責任をもたなければならぬ。

自分は数ある職業の中で農業を選んだが、最初のうちは農業に対する劣等感と、何も知らないうという不安をもっていたが、

スポーツでも何でもそうである。苦しみや辛さに耐えぬいたとき程、後に心に残り、役立つものである。いろいろな事を経験すればする程、人間は自信を持ち、大きくなっていくのだと思う。

今日ここに成人式を迎えるに至り、成人となり得ることが、単に二十歳になるだけではなく、我々の生いたちという年輪をいかに過ごし、自己それぞれの目標を達成することができるといふ、自覚と能力を持った人のことを真の成人と言えるのだと思う。ゆえに、僕の成人式は、まだ険しい。

自分の部落にはたくさんさんの若い先輩方がいて、いろいろ面倒を見てくれ、不安や劣等感というものがないに薄れ、今では反対に自信と誇りを持てるようになりました。

これから先も人生の荒波にもまれていくでしょうが、自分の信念をもって社会の一員として努力していきたいと思う。



## 成人式会場から

